

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

|       |     |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 富山県 |
|-------|-----|

学校の概要(平成15年4月現在)

|     |           |     |     |     |     |     |      |     |     |
|-----|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|
| 学校名 | 富山市立呉羽小学校 |     |     |     |     |     |      |     |     |
| 学 年 | 1年        | 2年  | 3年  | 4年  | 5年  | 6年  | 特殊学級 | 計   | 教員数 |
| 学級数 | 3         | 3   | 3   | 3   | 3   | 3   | 1    | 20  | 28  |
| 児童数 | 117       | 100 | 118 | 101 | 110 | 141 | 2    | 689 |     |

研究の概要

1. 研究主題

|   |
|---|
| <p>研究主題<br/>望ましい生き方をめざし、進んで行動する子供の育成<br/>～一人一人の学力を確かなものにする支援の在り方～</p> <p>主題設定の趣旨<br/>本校では、子供がよりよい自分になるために、主体的に粘り強く目当てに向かい、自立的に生きていくことを願っている。そこで、「学力」は生きる力を「知」の側面からとらえたものと考え、一人一人が意欲的に学習に取り組み学力を確かなものにしていくための教師の支援の在り方を子供の姿を通して明らかにしていきたい。</p> |
|---|

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

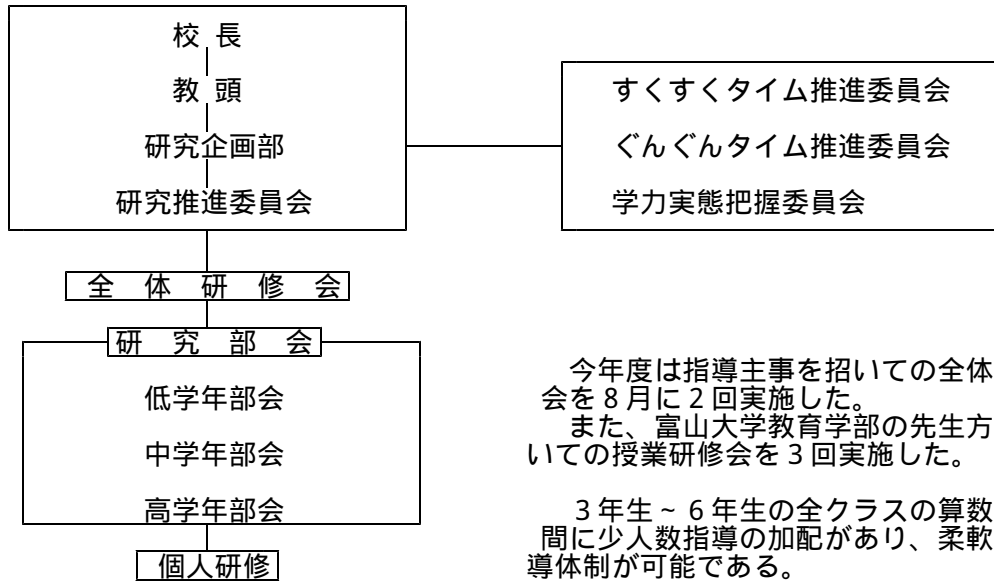
|   |
|---|
| <p>・1年～6年・算数<br/>算数科は系統性のある教科である。研究成果をより明確にするため全学年において実施する。</p> |
|---|

(2) 年次ごとの計画

|        |  |
|--------|--|
| 平成15年度 | <p>テーマ<br/>・「一人一人の学力を確かなものにする支援の在り方」<br/>研究の見通し<br/>・一人一人が「基礎・基本」と「自ら学び自ら考える力」をバランスよく身につけるための教師の支援の在り方を明らかにしていく。<br/>・要請訪問研修会を計画的(6月、8月、11月、2月)に行い研修の充実を図る。<br/>研究の内容・方法<br/>(1) 教科の基礎・基本を大切にしながら自ら学び自ら考える力を育むための支援(教材開発・単元構想等)について、部会毎に仮説を立て、授業研究を通して子供の姿で検証していく。<br/>(2) 基礎・基本の確実な定着をめざす指導方法や指導体制の工夫について日々の実践の中から明らかにしていく。<br/>3年生以上は加配教員とともに少人数指導やTTなどの効果的な指導方法を実践する。<br/>朝の15分間学習((すくすくタイム)と放課後の発展・補充学習(ぐんぐんタイム)を日課表に位置づけ継続的に行うことで教科学習との相乗効果を図る。</p> |
|--------|--|

|        |   |
|--------|---|
| 平成16年度 | <p>テーマ<br/>・「教科の基礎・基本を大切にしながら自ら学び自ら考える力を育む学習指導の在り方」<br/>研究の見通し<br/>教師の指導力が学力向上の大切な要因であることを前提に、15年度の研究から明らかになったことをもとに、各担任が、教科(総合的な学習の時間を含む)を選択し、仮説を立て、授業実践を通して解明していく。<br/>また、推進委員会が中心となり「指導に生かす学力の数値化」や「基礎基本の定着を図るための指導体制」の研究を推進していく。<br/>研究の内容・方法<br/>(1) 内容<br/>・主体的な学びのある教材や単元構想の工夫<br/>・一人一人にきめ細かな指導を行うための指導方法や指導体制の工夫<br/>・育てたい力と指導に生きる評価方法<br/>(2) 方法<br/>・学年部会と教科部会の協力のもと、上記の3つの内容について解明していく。</p> |
|--------|---|

(3) 研究推進体制



今年度は指導主事を招いての全体研修会を8月に2回実施した。  
また、富山大学教育学部の先生方を招いての授業研修会を3回実施した。

3年生～6年生の全クラスの算数の時間に少人数指導の加配があり、柔軟な指導体制が可能である。

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- (1) 教科の基礎・基本を大切にしながら自ら学び自ら考える力を育むための支援  
今年度の算数科での授業実践は、下記の通りである。

- 1年生「まめのかずをかぞえよう」(20より大きい数)  
2年生「ゆう園地へ行こう!」～チケットの数をしらべよう～(かけ算)  
3年生「水のかさをはかるう」  
4年生「はしたの大きさの表し方を考えようパート1」(小数)  
5年生「フリースロー王決定戦」～小数のかけ算とわり算を考えよう～  
6年生「思い出BOX」を作ろう」～立体の「へえ～」を見つけながら～

教材について

- ・ 子供の興味関心や生活に結びついた教材を開発し、適度な困難を感じる学習課題を提示することで、子供たちは、意欲的に学習に取り組もうとする。
- ・ 低学年の場合は、十分な操作活動が量感を豊にすることにつながるので、操作しやすく興味の持続する教材が望ましい。
- ・ 中学年の場合は、楽しく活動する場から、子供が思考できる場へ移行できるような教材や学習課題の工夫が必要である。

単元構想について

- ・ 系統性を考慮したり、教材の本質を見極めたりしながら細かな教材研究を行い、「教師が教えること」と「子供に考えさせること」を整理して指導事項も明記した単元構想を工夫することが学力向上につながる。
- ・ 単元構想がはっきりしていることで、子供の思考が予想されるので必要な教材等を準備できるとともに、個に応じた支援が十分にできる。

指導体制について

- ・ TTの場合は、二人の役割を明確にして、役割分担をしながらも連携した援をすることで、よりきめ細かな指導が可能になる。

評価と指導について

- ・ 子供の具体的な姿で毎時間実施できる評価規準を作成し累積していくことで評価を生かした指導が可能になる。
- ・ よくわからない子供の思考や理解を助けるのにスモールステップのミニプリントの活用は有効である。
- ・ 自分の考え方の変化のわかるノートづくりを指導し、授業の最後に学習を振り返り、自分の考えを見つめる時間を設けることを継続していくことで子供の考えが深まっていく。2年生の実践では、チケットをノートに貼ることで、子供が自分の考えを整理できるとともに、教師が子供の考え方をより確実に把握し、次の指導に生かすことができた。
- ・ 授業の終わりに学習した練習プリントと同じ物を家庭学習にすることで、繰り返し学習につながり、それを評価し支援に生かすことができる。

その他

- ・ 明確な課題提示をすることで、子供たちは、意欲的に学習活動に取り組みながら課題を追究していく。グループ学習においても個々のめあてが明確になっていることが大切であり、個々の願いを把握して支援することで、グループ学習の質も高まる。
- ・ 確かな学力を育てるためには、学びを共有できる学級集団が不可欠である。また、結論を言う前から理由を話すなどの話し合い活動でのルールづ

- くりも大切である。基盤になるのは学級経営である。
- (2) 基礎・基本の確実な定着をめざす指導方法や指導体制の工夫  
 複数の教師による指導（少人数指導・T・T）
- ・ 個別指導の時間が増えることで、子供のつまづきを的確に捉え指導に生かすことができた。
  - ・ 加配教員が中心になり、教材や教具、スモールステップのプリント等を作ったり、学年で単元毎の指導内容や指導方法の打ち合わせを計画的に行うことで、学習内容が充実し、きめ細かな指導につながった。
- 呉羽寺子屋教室（すくすくタイム・ぐんぐんタイム）
- ・ すくすくタイムでは、音読・計算・チャレンジ・漢字・読書と曜日毎の課題を決め1限の15分間継続して取り組んできたことにより、子供が見通しをもち、自信をもって取り組む姿が見られた。そのことが一日の生活（学習）リズムをつくり集中力を高めてきている。
  - ・ ぐんぐんタイムでは、放課後の時間を利用し、「呉羽っ子ルーム」での自主学習の場を設けたことにより、子供たちは、不明な点について個別に指導を受け、できる喜びやわかる楽しさを味わい学ぼうとする意欲につながった。

## 2. 今後の課題

- 指導に生かすための子供の学力の数値化
- ・ 今年度は、子供の学力の実態を数値化したり指導に十分生かしたりすることができなかったため、来年度は、何をどのように数値化するのかを明確にして指導に生かすとともに、成果や課題について考えるときの客観的な資料にしたい。
- 教師の指導力の向上
- ・ 子供の学力を考えると、教師の指導力が大きくかかわってくることを実感した。そこで、子供の好きな教師の条件を探りながら、教師の指導力の実態を数値化したりして学力向上のための教師の指導力を高めていきたい。
- 算数科から他教科や総合的な学習の時間への研究の拡大
- ・ 今年度は、算数科を窓口に必要な学力について研修を進めてきたが、来年度は、他の教科や総合的な学習の時間等にも広げながら、生きる力につながる学力の向上を目指して、一人一人に応じたきめ細かな支援を行うための単元構想や指導方法、柔軟な指導体制を工夫していきたい。
- すくすくタイムやぐんぐんタイムの充実
- ・ 一人一人の基礎・基本の力を育むために、子供の实態や学習内容との関連から今年度以上に内容や方法（時間や場所を含む）を吟味し、子供のやる気を大切にしながら取り組んでいきたい。

## 学力等把握のための学校としての取組

|   |
|---|
| <p>学力調査の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の学力の実態（傾向）を把握するために、4月に実施した県小教研究学力調査（3年～6年）の算数科について1学期に分析を行った。</li> </ul> <p>チャレンジテスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漢字及び計算について当該学年の内容（基礎・基本）の定着を把握するために、12月と2月の2回全学年対象に実施する。</li> </ul> <p>CRT検査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年や学級の傾向を把握するとともに、来年度の児童の実態と比較し、指導方法の効果を確認するために、全学年の算数科について、客観性の高いCRT検査分析を2月に行う。</li> </ul> |
|---|

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

|   |
|---|
| <p>研究会、説明会等は今年度は実施しなかった。16年度は、11月19日に研究会を行う予定である。</p> <p>6月、11月、1月の3回要請訪問研修会を実施し、区域（近隣）の小学校に算数の授業公開を通して研究成果の普及に努めた。</p> |
|---|

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

|                      |   |  |  |
|----------------------|---|--|--|
| 【新規校・継続校】            | <input checked="" type="checkbox"/> 15年度からの新規校  | <input type="checkbox"/> 14年度からの継続校  |  |
| 【学校規模】               | <input type="checkbox"/> 6学級以下<br><input type="checkbox"/> 13～18学級<br><input type="checkbox"/> 25学級以上 | <input type="checkbox"/> 7～12学級<br><input checked="" type="checkbox"/> 19～24学級 |  |
| 【指導体制】               | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導<br>一分教科担任制  | <input type="checkbox"/> T・Tによる指導<br>その他                                       |  |
| 【研究教科】               | <input type="checkbox"/> 国語<br><input type="checkbox"/> 生活<br><input type="checkbox"/> 体育             | <input checked="" type="checkbox"/> 算数<br><input type="checkbox"/> 図画工作        | <input type="checkbox"/> 理科<br><input type="checkbox"/> 家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有   | <input type="checkbox"/> 無   |  |